

第22期中間事業報告書

平成18年3月1日から平成18年8月31日まで

Heart Warming 



株式会社メディカルー光

JASDAQ

証券コード 3353

経 営 理 念

メディカル光グループは、「良質の医療サービスをより多くの人に提供する」という理念の下、医療と生活を取り巻く市場ニーズに多角的に応える事業を推進してまいります。

当社グループは、医療に特化した独自性の高いビジネスモデルを展開しております。

主力事業の調剤薬局事業においては、新規出店等による拡大とともに効率経営による収益力の強化に取り組んでおります。また、平成18年5月にはM&Aにて平安薬局株式会社と有限会社メデコア両社の株式を取得したことにより、神奈川県3店舗が加わり関東圏へ進出をいたしました。

医薬品卸事業は、ジェネリック医薬品の使用促進が政策的に進められ、市場の拡大が見込まれるなかで、平成18年3月に株式会社メディシン光として分社化し、新たにスタートをいたしました。

不動産事業は、病院施設の賃貸を中心に安定的な収益を確保するとともに、保有不動産の有効活用を図ってまいります。

これらの3事業に加えて介護事業への進出を図るため、平成17年10月に株式会社ヘルス케어光を設立いたしました。同新会社では、メディカルモールの開発や有料老人ホーム等の開発に取り組んでまいります。

当社は今後、これら4事業のシナジー効果を活用して、医療を取り巻く市場のニーズに多角的に応えることができるよう、事業の構築を推進してまいります。

各事業の相乗効果



株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第22期中間期（平成18年3月1日～平成18年8月31日）の事業報告書をお届けし、営業の概況等をご報告させていただきます。

当社は、処方箋の受け皿となる調剤薬局を主たる事業として展開しております。

医薬分業率は50%台に入り、緩やかな拡大傾向で推移しておりますが、収益構造は大きく変化しており、質的向上を最優先し、経営の一層の効率化に取り組んでおります。また、規模の拡大を目指し、基盤といたします三重県・関西地区等への店舗展開を進める一方、M&A案件には積極的に対応してまいります。

これからの医療・介護は、超高齢社会を見据えたインフラ整備が求められており、質の高いサービスの提供が望まれています。このような環境下にあって当社は、調剤事業で培ったノウハウとネットワークを活かし、メディカルモールの開発や有料老人ホーム等の運営事業に進出し、医療周辺分野での新たな事業開発を進めてまいります。

当社は、医療を「高度な接客業」と位置づけております。患者様のみならず、医療機関、行政機関からも信頼される医療サービスを提供することが、企業として持続的かつ安定的に成長を図っていくための最良の方法であると考えております。医療・調剤・介護のシナジー効果により、良質の医療サービスをより多くの人に提供し、さらなる業容の拡大と収益力の強化を図っていく所存です。

株主ならびに投資家の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年11月

代表取締役社長 南野 利久



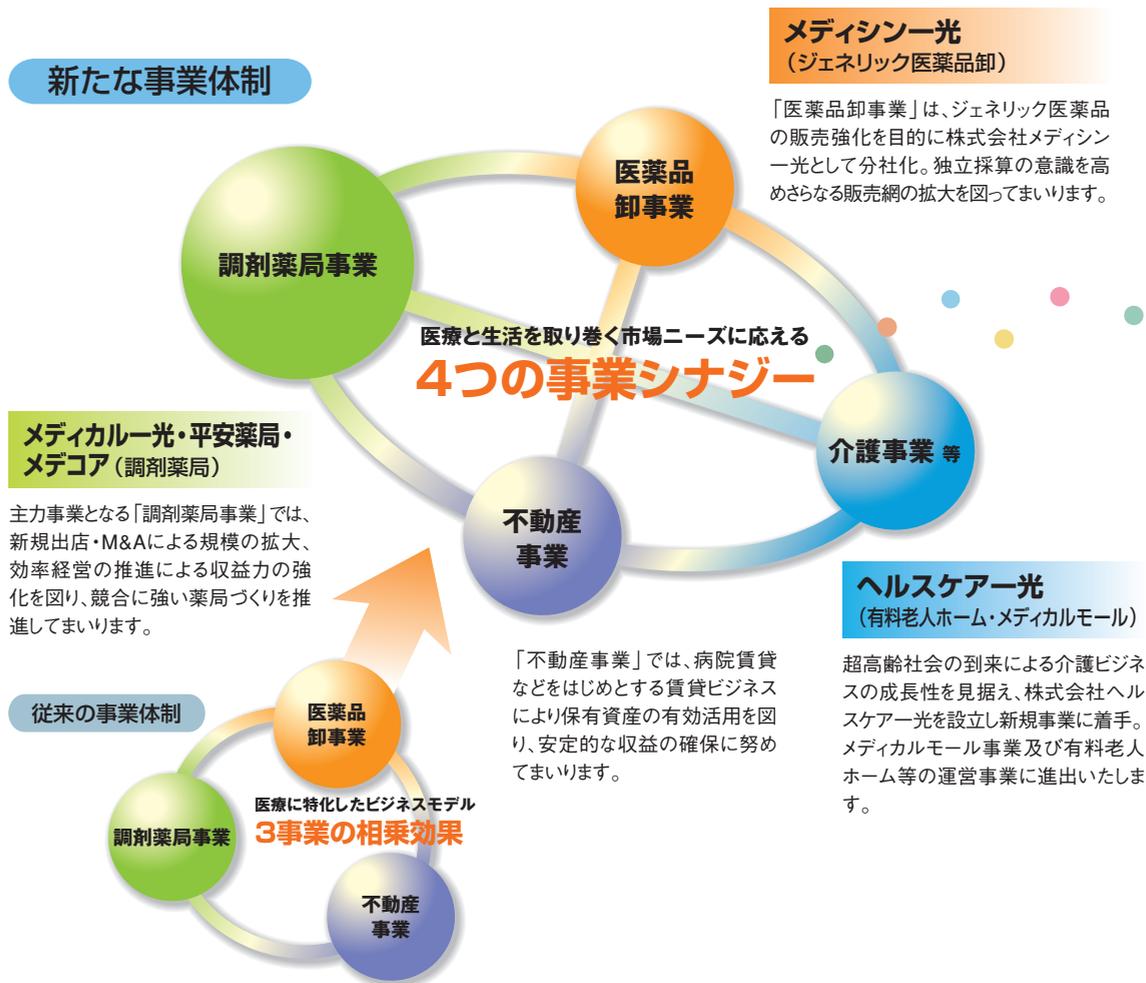
Contents

経営理念	1
株主の皆様へ	2
今後の事業展開	3
営業の概況	4
TOPICS	5
連結財務諸表	7
単体財務諸表	9
会社の概要	10

事業戦略

従来の「医療に特化したビジネスモデル」を基盤として、さらに医療と生活を取り巻く市場ニーズに多角的に応える事業の構築を推進してまいります。

新たな事業体制



営業の概況

営業の概況

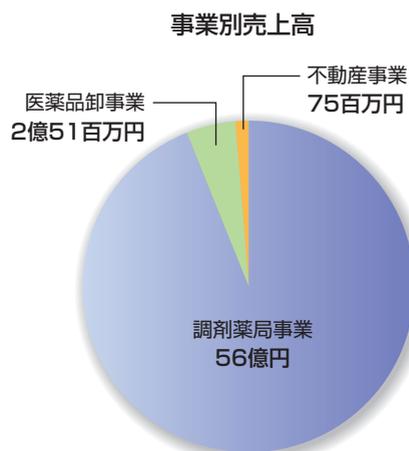
当社の主力とする調剤薬局業界におきましては、医療費抑制を目的とした制度改革が進められているなかで、医療費の本人負担額の増加等による受診抑制が続いております。平成18年4月の診療報酬改定では、調剤報酬引下げ（△0.6%）と薬価改正（平均△6.7%）が行われ、調剤薬局業界を取り巻く環境は、厳しさを増しております。

当社は調剤薬局事業をコア事業と位置づけるとともに、介護事業を新規事業として展開を進めております。また、当中間期から、子会社4社及び持分法適用関連会社1社を含む連結決算に移行いたしました。

調剤薬局の店舗展開といたしましては、当中間期に高槻店（大阪府）、三国店（福井県）、太閤店（愛知県）の3店舗を新規開局いたしました。また、M&Aにより平安薬局株式会社と有限会社メデコアの2社を全額出資の子会社化したことにより、平安薬局小田原店、平安薬局二宮店、平安薬局元町店の3店舗（神奈川県）を取得し、当中間期末の店舗数は67店舗となりました。

医薬品卸事業につきましては、医療制度改革の一つとして後発医薬品（ジェネリック）の利用促進策が盛込まれており、後発医薬品の販売強化を目的として、平成18年3月に株式会社メディシー光として分社化し、経営の効率化と責任体制の明確化を図っていくこといたしました。

新規事業につきましては、子会社である株式会社ヘルスケアー光の事業として、メディカルモールの開業準備を進めており、平成18年11月に第1号となるメディカルモールを三重県津市に開業する予定であります。



有料老人ホーム等の新規事業は、現在開業に向けて準備中

隣接場所には、来年夏頃の開設を目指して、有料老人ホームの開業準備に着手し、介護事業の本格稼働に向けた計画を進めております。

以上の結果、当中間期の連結業績は、売上高は5,926百万円（前年同期単独比14.1%増加）、営業利益は188百万円（同9.6%減少）、経常利益は150百万円（同16.9%減少）となりました。また、特別損失に減損損失126百万円等を計上した結果、中間純損失は11百万円となりました。

メディカルー光グループとしてスタート

- 当社は、さらなる業容の拡大を目指し、意思決定のスピード化と責任体制の明確化を図ることを目的として、子会社を設立いたしました。
 - *平成18年3月、ジェネリック医薬品の市場拡大が見込まれるなか、株式会社メディシンー光として分社化するとともに販路を三重県から岐阜県にも拡大いたしました。
 - *平成18年5月、株式会社ヘルスケアー光にてメディカルモールの工事着工及び有料老人ホームの開業準備に着手いたしました。
- 当社は、M&Aにて取得した2社を含めた子会社4社と、持分法適用関連会社1社のグループ会社となり連結決算に移行いたしました。

M&Aにて、平安薬局株式会社 及び有限会社メデコアを子会社化

平成18年5月、平安薬局株式会社と有限会社メデコア両社の株式を取得し子会社化したことにより、平安薬局小田原店、平安薬局二宮店、平安薬局元町店の3店舗（神奈川県）が加わりました。



調剤薬局6店舗増加 (新店3店舗・M&A3店舗)

当中間期は、高槻店（大阪府）、三国店（福井県）、太閤店（愛知県）の3店舗を新規開局いたしました。M&Aによる3店舗を加え、当中間期末の店舗数は67店舗となりました。



メディカルモール事業・ 有料老人ホーム事業に着手

株式会社ヘルスケア光にて、新たな医療ビジネスである「メディカルモール事業」を開始いたしました。当事業は、平成18年5月に工事着工し、11月には三重県津市に第1号施設を開業いたします。また、医療モールの隣接場所には、平成19年夏頃の開設を目指して、有料老人ホームの開業準備に着手いたしました。



保有資産の有効活用

不動産事業として、保有資産の有効活用を目的として、三重県津市にビジネスホテルを建築し一括賃貸する契約をルートインジャパン株式会社と締結いたしました。

平成19年2月より賃貸を開始し、長期安定的な収益を見込んでおります。



CSR

平成18年5月、国立大学法人 三重大学医学部附属病院 小児科病棟に遊具一式（21点）を寄附させていただきました。この遊具は、病棟内にあるプレイルームに設置されており、入院生活を送られているお子様に利用していただいています。

当社は、事業展開に深く関わる医療を通じて、医療の現場に対するボランティア活動や青少年の健全な育成にかかる支援を今後も推進してまいります。

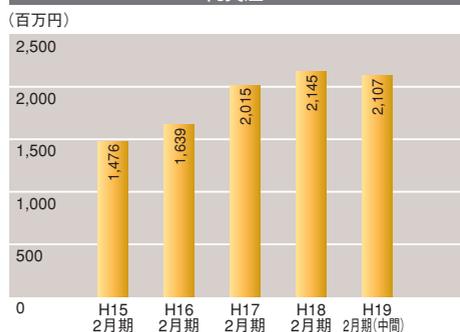


連結財務諸表

総資産



純資産



純資産比率



・H15.2月期からH18.2月期までは単体ベースで表示されています。

■中間連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当中間期) 平成18年8月31日現在	第21期(前期/単体) 平成18年2月28日現在
資産の部		
流動資産	3,229	2,505
現金及び預金	1,189	773
売掛金	1,402	1,143
たな卸資産	515	476
その他	122	112
貸倒引当金	△0	△0
固定資産	4,979	4,217
有形固定資産	3,461	3,431
建物及び構築物	1,594	1,581
土地	1,563	1,660
その他	303	189
無形固定資産	641	67
投資その他の資産	876	718
資産合計	8,208	6,722
負債の部		
流動負債	3,399	2,734
買掛金	1,944	1,446
短期借入金	100	150
1年内返済予定長期借入金	985	705
その他	369	432
固定負債	2,701	1,843
社債	500	500
長期借入金	1,991	1,144
その他	210	198
負債合計	6,101	4,577
資本の部		
資本金	—	737
資本剰余金	—	657
利益剰余金	—	743
その他有価証券評価差額金	—	7
資本合計	—	2,145
負債・資本合計	—	6,722
純資産の部		
株主資本	2,091	—
資本金	737	—
資本剰余金	657	—
利益剰余金	699	—
自己株式	△1	—
評価・換算差額等	15	—
その他有価証券評価差額金	15	—
純資産合計	2,107	—
負債・純資産合計	8,208	—

・当中間期から連結決算に移行しており、前中間期の各指標は単体ベースで記載しております。

■中間連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当中間期) 平成18年3月1日から 平成18年8月31日まで	第21期(前中間/単体) 平成17年3月1日から 平成17年8月31日まで
売上高	5,926	5,190
売上原価	5,399	4,654
売上総利益	527	536
販売費及び一般管理費	338	327
営業利益	188	208
営業外収益	3	3
営業外費用	41	30
経常利益	150	181
特別利益	2	34
特別損失	136	64
税金等調整前中間純利益	16	151
法人税、住民税及び事業税	83	104
法人税等調整額	△55	△25
中間純利益又は純損失(△)	△11	72

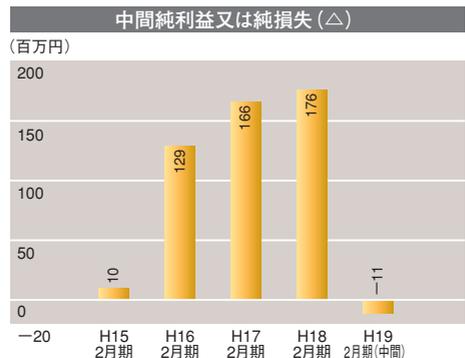
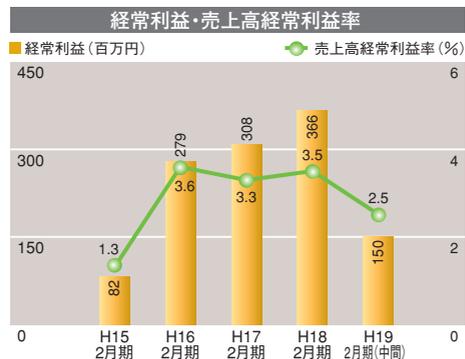
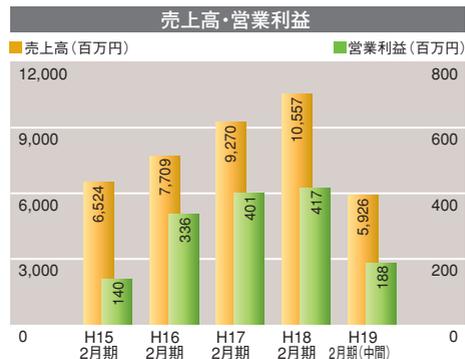
- ・当中間期より、連結会計に移行しておりますので、前中間期の各指標は単体ベースで記載しております。
- ・薬割仕入原価については、当社グループの見込価格を使用しております。
- ・当期純損失につきましては、当中間期にて減損会計を適用し特別損失126百万円を計上しております。

■中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当中間期) 平成18年3月1日から 平成18年8月31日まで	第21期(前中間/単体) 平成17年3月1日から 平成17年8月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	259	468
投資活動によるキャッシュ・フロー	△898	△174
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,042	△344
現金及び現金同等物の増減額	403	△50
現金及び現金同等物の期首残高	773	1,199
新規連結子会社の現金及び現金同等物の中間期首残高	11	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,189	1,148

- ・当中間期から連結決算に移行しており、前中間期の各指標は単体ベースで記載しております。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出205百万円及び新規連結子会社の株式取得による支出594百万円等により減少しました。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、投資活動の資金を長期借入金にて調達したことにより増加しました。



・H15.2月期からH18.2月期までは単体ベースで表示されています。

単体財務諸表

■中間貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当中間期) 平成18年8月31日現在	第21期(前中期) 平成18年2月28日現在
資産の部		
流動資産	2,747	2,505
現金及び預金	974	773
売掛金	1,197	1,143
たな卸資産	471	476
その他	103	112
貸倒引当金	△0	△0
固定資産	5,101	4,217
有形固定資産	3,388	3,431
建物及び構築物	1,553	1,581
土地	1,563	1,660
その他	270	189
無形固定資産	64	67
投資その他の資産	1,648	718
資産合計	7,848	6,722
負債の部		
流動負債	3,066	2,734
買掛金	1,717	1,446
短期借入金	100	150
1年内返済予定長期借入金	985	705
その他	264	432
固定負債	2,692	1,843
社債	500	500
長期借入金	1,991	1,144
その他	201	198
負債合計	6,101	4,577
資本の部		
資本金	—	737
資本剰余金	—	657
利益剰余金	—	743
その他有価証券評価差額金	—	7
資本合計	—	2,145
負債・資本合計	—	6,722
純資産の部		
株主資本	2,073	—
資本金	737	—
資本剰余金	657	—
利益剰余金	680	—
自己株式	△1	—
評価・換算差額等	15	—
その他有価証券評価差額金	15	—
純資産合計	2,088	—
負債・純資産合計	7,848	—

■中間損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当中間期) 平成18年3月1日から 平成18年8月31日まで	第21期(前中期) 平成17年3月1日から 平成17年8月31日まで
売上高	5,341	5,190
売上原価	4,935	4,654
売上総利益	405	536
販売費及び一般管理費	268	327
営業利益	136	208
営業外収益	6	3
営業外費用	36	30
経常利益	106	181
特別利益	1	34
特別損失	135	64
税引前中間純利益又は純損失(△)	△27	151
法人税、住民税及び事業税	55	104
法人税等調整額	△52	△25
中間純利益又は純損失(△)	△30	72
前期繰越利益	—	305
中間未処分利益	—	377

会社の概要

会社概要 (平成18年8月31日現在)

商号	株式会社メディカルー光
設立	昭和60年4月17日
本社所在地	三重県津市藤方501番地の62 059 (226) 1193 (代表)
資本金	7億3,700万円
従業員数	364名 上記従業員のほか、契約社員及び パート社員84名(1日8時間換算)
事業内容	調剤薬局事業/医薬品卸事業/ 不動産事業/メディカルモール事業/ 有料老人ホーム事業

地域別店舗数	合計	67店舗			
北海道	2店舗	兵庫県	4店舗	愛知県	3店舗
福井県	4店舗	奈良県	2店舗	神奈川県	3店舗
京都府	8店舗	島根県	1店舗	三重県	29店舗
大阪府	9店舗	滋賀県	2店舗		

役員 (平成18年8月31日現在)

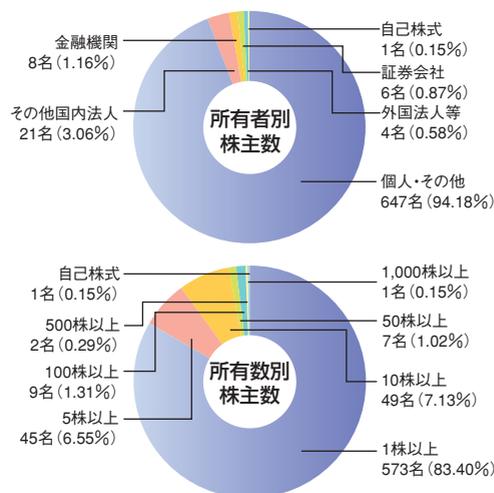
代表取締役社長	南野利久	取締役	澤宏紀
代表取締役専務取締役	西井文平	取締役	玉泉広子
代表取締役常務取締役	小黑博	常勤監査役	柴高且
取締役	小野和則	監査役	早水恵之
取締役	大西登志和	監査役	江口博明
取締役	櫻井利治	監査役	酒谷宜幸
取締役	廣枝了三		
取締役	安達佳之		

株式の状況 (平成18年8月31日現在)

1. 発行可能株式総数	30,000株
2. 発行済株式の総数	8,975株
3. 株主数	687名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
イオン株式会社	2,250	25.07
株式会社リオ	971	10.82
南野利久	906	10.09
メディカルー光従業員持株会	407	4.53
菊川 東	400	4.46
沢井製薬株式会社	350	3.90
イチエスピーバンク ビーエルシー アカウント アトランティス ジャパン グロース ファンド	319	3.55



株 主 メ モ

事業年度	3月1日から翌年2月末日
定時株主総会	5月
基準日	2月末日（その他必要があるときは予め公告いたします）
期末配当金受領株主確定日	2月末日
中間配当金受領株主確定日	8月31日
株主名簿管理人	株式会社だいこう証券ビジネス
同事務取扱場所	〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部 （お問合せ先） ☎ 0120-255-100 （各種手続用紙のご請求） ☎ 0120-351-465 http://www.daiko-sb.co.jp/
同 取 次 所	株式会社だいこう証券ビジネス 各支社
公 告 の 方 法	電子公告 〈 http://www.m-ikkou.co.jp/ 〉 ただし、電子公告を行うことができない場合、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
証 券 コ ー ド	3353